

講演

南海トラフ地震及び内陸型地震の影響と防災 (第105回月例会)

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域、土佐湾を経て日向灘沖に至る「南海トラフ」周辺の地殻活動の調査結果によると、今後30年以内に大規模地震が発生する確率は70～80%で、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過し切迫性の高い状態であり、津波高は最大30メートルを超えると想定されています。

今回は、神戸气象台から講師を迎えて、最近の地震や地殻変動の観測状況を解説していただくとともに、地震・津波災害に備えて準備しておくべき物、発災時に留意すべき事項などについて講演していただきます。

■講師

神戸地方气象台 南海トラフ地震防災官 伊藤 嘉記 氏

■開催日時

令和6年2月1日(木) 15:00～16:00頃まで

■開催場

神戸市中央区東町115番地 神戸市中央区文化センター 10階
1001-1002会議室(定員 50名)



■主催

公益社団法人 神戸海難防止研究会(担当: 渡川又は藤原)
電話 078(332)2035

入場無料(定員50名)